

人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」 東海大学グループ 東海大学菅生高等学校で4月より利用開始 「学力診断テスト」機能を活用し、一人一人の習熟度に応じた学び直しを実現

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦、以下すららネット）は、4月より、東海大学グループの東海大学菅生高等学校（所在地：東京都あきる野市、校長：峰岸 英仁）にて、生徒の理解度に応じた学び直しを行い、効率よく基礎学力の向上を実現するために、クラウド型学習システム「すらら」を提供することになりました。東海大学グループで初めて「すらら」の活用が始まります。

東海大学菅生高等学校は、東京都あきる野市にある東海大学の系列校です。現役での大学進学率が90%を超える一方、昨年夏の甲子園大会でベスト4進出を果たした硬式野球部をはじめ、クラブ活動が盛んで、「文武両道」を掲げています。

広大な自然の中で学び、学習と部活動を通じ「自立・自学・自生」を身に付け人間力を高めていくことを方針としており、海外研修や留学生の受け入れといった国際理解や自学館と呼ばれる自習スペースを利用した自学により、東海大学への進学その他、多種多様な進路を実現しています

この度の「すらら」導入は、東海大学が力を入れている英語教育の促進に向け、ベースとなる基礎力向上を図ることが目的です。従来は、集合授業の中で、一律の課題に取り組んでいましたが、高校入学時の習熟度は個々により差があり、効果的な学びにつながらないこともありました。また部活動も活発であり、多量の宿題を課すことも難しい状況がありました。

限られた時間で効率的に基礎力を定着させるには、既習範囲の習熟度に応じて個別に課題を復習することが重要です。「すらら」の「学力診断テスト」機能を活用することにより、一人一人の弱点を見つけ、習熟度に応じた学習課題を提供することができます。

【運用の中心となる英語科主任 谷野教諭のコメント】

初めて「すらら」を体験した時の驚きが忘れられません。

本校は部活動が非常に盛んな学校であり、生徒は日々目標達成のために厳しい練習を行っています。私はずっと、限られた学習時間の中で出来る効率的な学習方法を考えていました。そんな時に出会ったのが「すらら」でした。

「すらら」の特徴であるインタラクティブ授業、難易度コントロール機能、管理画面は、本校の生徒に必要な学習方法を提供してくれるでしょう。学力格差のある生徒にも個別に対応できるので、全体的な学力の底上げを期待しています。

「すらら」は、テストを利用したアセスメントを行い、個々に応じたアダプティブ・ラーニングを強みとしています。既習範囲の効率的な学び直しはもちろん、日々の授業の復習にも利用できるアセスメントテストの提供をすることで、一人一人に対し、効果的な学びの場を提供していきます。

<本件に関するお問合せ先>
株式会社すららネット 広報担当 e-mail: support@surala.jp
TEL: 03-5283-5158 FAX: 03-5283-5159

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学1年生～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約50,000名（2017年12月末日現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AIが生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AIサポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■ 株式会社すららネット 会社概要（2017年12月末日現在）

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：27,279万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社URL：<http://surala.jp/>
- 受賞歴：
 - ・第9回日本e-Learning大賞 文部科学大臣賞(2012年)
 - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014年)
 - ・第2回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016年）
 - ・第8回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016年)
 - ・「東京都革新的サービス」優秀賞（2017年）
 - ・「SDGs ビジネスアワード2017」スケールアウト賞（2017年）
 - ・「世界発信コンペティション2017」優秀賞受賞（2017年）